

**今回のポイント**

- 有効莖数を確保したら、中干しにより無効分けつの発生を抑えましょう。
- いもち病は、予防が第一！早期発見・早期防除に努めましょう。
- 斑点米カメムシ類対策として、雑草防除を徹底しましょう。

**1 気象経過（6月1日～19日）**

期間の前半は、気温が高く、日照時間が多く、降水量が少なくなりました。

東南部地方は6月7日に梅雨入りしたとみられ、期間の後半は、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、気温が低く、日照時間が少なくなりました。

表1 気象経過

観測地点	期間	平均気温 (平年差)	最高気温 (平年差)	最低気温 (平年差)	日照時間 (平年比)	降水量 (平年比)
古川	6月1日～10日	+1.3℃	+1.5℃	+0.6℃	131%	83%
	11日～19日	-1.0℃	-1.1℃	-1.1℃	95%	126%
川渡	6月1日～10日	+1.3℃	+2.2℃	+0.2℃	127%	79%
	11日～19日	-1.2℃	-1.1℃	-1.5℃	91%	125%

**2 水稻生育調査ほの生育概況**

水稻の生育は、平年並からやや上回っていますが、田植えが遅かった地点については、平年を下回っています。管内の各調査地点の生育状況は表2のとおりです。

- ・草丈は、西部丘陵のひとめぼれ、北部平坦のみやこがねもち以外は、平年並みからやや長い傾向です。
- ・莖数は、西部丘陵のひとめぼれ、北部平坦のみやこがねもち以外は、平年並から多い傾向です。
- ・葉数は、西部丘陵のひとめぼれ以外は、平年並から多い傾向です。
- ・葉色は、北部平坦のひとめぼれ以外は、平年に比べ淡い傾向にあります。

表-2 6月20日の調査結果

地区名 (地帯区分)	品種名 (田植月日)	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m <sup>2</sup> ) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)
三本木 (北部平坦)	ひとめぼれ (5月4日)	39.0 (106%)	440.1 (105%)	8.9 (+0.4)	43.3 (+1.5)
小野田 (西部丘陵)	ひとめぼれ (5月19日)	32.0 (87%)	278.5 (72%)	8.0 (-0.3)	41.2 (-2.2)
古川 (北部平坦)	ササニシキ (5月8日)	35.0 (99%)	425.2 (96%)	8.8 (+0.5)	39.7 (-1.1)
三本木 (北部平坦)	だて正夢 (5月8日)	44.9 (-)	521.0 (-)	9.3 (-)	43.3 (-)
R1 新規 三本木 (北部平坦)	金のいぶき (5月10日)	35.8 (-)	432.1 (-)	9.4 (-)	43.5 (-)
宮崎 (西部丘陵)	まなむすめ (5月12日)	39.9 (107%)	468.1 (118%)	8.2 (+0.2)	41.0 (-3.3)
R1 新規 鳴子 (山間高冷)	ゆきむすび (5月24日)	27.3 (-)	101.3 (-)	6.5 (-)	38.4 (-)
真山 (北部平坦)	みやこがねもち (5月19日)	34.3 (95%)	356.2 (80%)	8.4 (±0.0)	39.4 (-1.0)
県全体		35.4 (98%)	432.0 (109%)	8.6 (+0.3)	42.4 (+0.1)

※平年比・差は、前5か年(平成26年~平成30年)の平均値との比較。

県全体は、ひとめぼれ、ササニシキ、まなむすめの生育調査ほ35地点の平均値。

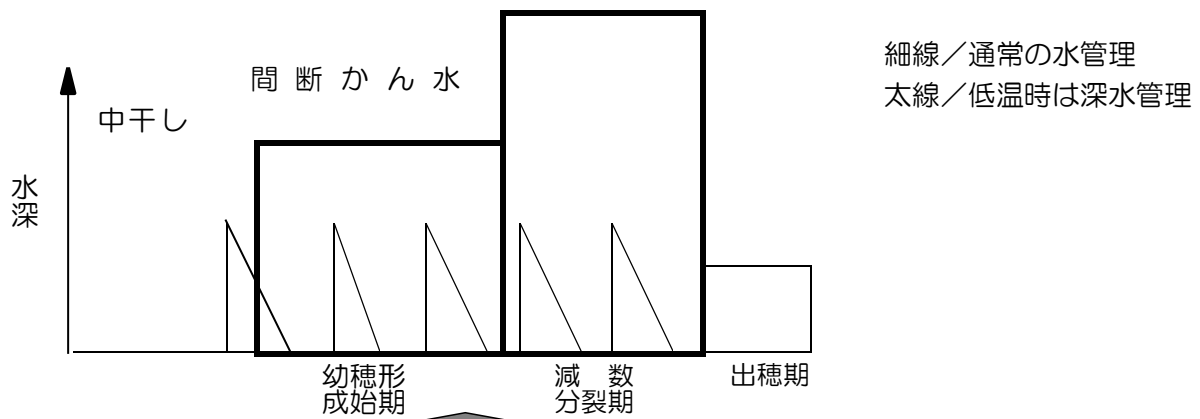
### 3 今後の管理(有効形確保期から出穂期まで)

#### (1) 中干し

- 根の健全化、倒伏抑制、無効分けつ抑制のため、有効莖数(表3参照)を確保したら、早めに中干しを行いましょ。
- 特に大区画ほ場などは、溝切りによって、排水やその後の入水をしやすくしましょ。
- 中干しは、小ヒビが入る程度、足跡が軽くつく程度の硬さを目安とし、葉色が濃く有効莖を確保したほ場では強めの中干しを行いましょ。
- 中干し終了後は、走水で飽水管理を行い、徐々に間断かん水に切り替え、根の活力維持に努めましょ。(急に湛水状態にすると土壌の還元が進み、根が傷みます。)

表3 品種別有効莖数の目安

品種名	有効莖数 (本/m <sup>2</sup> )	田植時の設定株数	
		50株/坪の場合 1株当たり本数	60株/坪の場合 1株当たり本数
ひとめぼれ	480~520	32~34	26~29
ササニシキ まなむすめ	460~500	30~33	25~27
みやこがねもち	380~430	26~28	21~24



**低温の障害を受けて最も減収しやすい危険期**  
 日平均気温20℃以下が長期間続く場合や最低気温17℃以下の場合には障害不稔が発生する危険性が高くなります。深水管理を実施しましょう。

図1 今後の水管理

## (2) 病虫害防除

### ① いもち病

- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を6月中・下旬に散布しましょう。
- ・梅雨時期に入り、いもち病の感染に好適な日が多くなります。しっかりほ場の観察を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・本田で発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。



葉いもちの病斑

感染に好適な条件	3つが全て満たされると感染に好適な条件となります。好適条件が連続して広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。
1 葉面湿潤時間が10時間以上	
2 葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃	
3 前5日間の平均気温が20℃～25℃	

※最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、宮城県病虫害防除所ホームページで確認できます。  
 HP<<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>>

### ② 斑点米カメムシ類

- ・斑点米の原因となるカメムシ類は、幼虫が発生する時期の草刈りで発生密度を減らすことが重要です。畦畔、農道や雑草地などの草刈りを7月中旬頃までに行い、成育密度の低下に努めましょう。
- ・また、水田内のイヌホタルイやノビエは、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、残草対策もしっかり行いましょう。



アカスジカスミカメ（成虫）

### ③ 紋枯病

- ・気温が22～23℃を超え、株間湿度が高くなると発生しやすくなります。
- ・特に前年発生した水田では、穂ばらみ期に水面施用剤の施用、穂ばらみ期から出穂期の茎葉散布剤の施用を検討しましょう。

### ④ 稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨が多く、出穂期以降に高温になると発生しやすくなります。
- ・特に前年発生した水田では、出穂10～20日前に銅含有薬剤の施用を検討しましょう。
- ・紋枯病との同時防除剤の散布は、穂ばらみ期に行いましょう。
- ・穂いもち、紋枯病と同時防除剤の散布は、出穂前8～12日頃に行いましょう。

### (3) 雑草防除

- ・一発処理剤を施用したほ場でも雑草があると、斑点米の原因となるカメムシがほ場に侵入します。雑草が残っている場合には、中後期剤の使用等により雑草防除を行いましょう。
- ・斑点米の原因となるカメムシの密度を低くするために、田んぼ周辺の牧草地と雑草地の草刈りは7月中旬頃までに終わらせましょう。

農薬の河川等への流出防止と除草効果安定のため、薬剤散布後7日間は落水、掛け流しはしないようにましょう。

### ◇◇◇◇◇春の農作業安全確認運動実施中（4月1日～6月30日）◇◇◇◇◇

農作業中の事故は農業機械によるものが多く、また、機械の転倒や転落が大きな要因となっています。あぜ越えや路肩を走行する際には油断せずに、後方確認を行い足元にも注意ましょう。

### ◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用ましょう。※最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページで確認できます。HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>>

## 4 今後の気象

### 東北地方1か月予報

(6月22日から7月21日までの天候見通し)

令和元年6月20日

仙台管区气象台 発表 ※一部抜粋

#### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または低い確率とも40%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北太平洋側	30	40	30
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北太平洋側	40	40	20

#### <気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	20	30	50
2週目	東北太平洋側	40	40	20
3～4週目	東北地方	40	30	30

#### <予報の対象期間>

1か月	6月22日(土)～7月21日(日)
1週目	6月22日(土)～6月28日(金)
2週目	6月29日(土)～7月5日(金)
3～4週目	7月6日(土)～7月19日(金)